埼玉県作業療法士会 広報誌

彩リ

秋冬号

2026年度

No.24



● 特集 ●

第35回 埼玉県作業療法学会 開催レポート

ー作業療法に関わる全ての人たちの魅力を伝える情報誌ー

第35回 埼玉県作業療法学会

「作業療法の魅力　－広めよう、伝えよう、私たちの仕事－」

第35回埼玉県作業療法学会 学会長 花房謙一



学会のテーマは、「作業療法の魅力　－広めよう、伝えよう、私たちの仕事－」でした。作業療法の魅力は、米国作業療法協会初代会長の言う“病者に励みを与える科学”という言葉に集約されていると私は考えています。できない作業、できなくなった作業ができるようになる喜びを分かち合い、励みを与える中で私たち自身も生活を成り立たせています。私自身も作業療法に支えられ、それを学生たちに伝えることで、作業の連続性を実感しています。

学会で報告した高校生の知名度は、ある程度の予測を持っていましたが、具体的な数値を知ることで、今後の取り組みの効果や課題をより明確に認識できるものと期待しています。

私は、作業療法の様々な領域と魅力をより多くの人々と共有し、さらに発展させていきたいという思いから、本学会を企画しました。作業療法は、人が何らかの作業に従事する限り、その可能性を広げ続けることができます。　人生は「塞翁が馬」です。これからも前を向いて共に歩んでいきましょう。

特別公演 三重県作業療法士会 田中一彦



皆様、「リハレンジャー」をご存じですか？
三重県作業療法士会創立20周年を機に、子どもたちが医師や看護師と同じように「作業療法士」の名前を知っている未来を願い誕生しました。保育園等の訪問から始まった活動は、県内外のイベントやWFOTでのPRへと広がり、知名度向上や求人増加などの効果を上げています。

一方で、作業療法の最大の啓発は、日々の臨床で出会う患者様やご家族、関連職種との信頼関係を通じた口コミです。それぞれの現場で作業療法を提供し続けることが、「作業の魅力」を伝える確かな一歩となります。誕生から60年を迎えた作業療法ですが、国民への浸透は道半ばであり、私たち一人ひとりがリハレンジャーとして各地で活躍し続ける必要があります。
今学会では、皆様がすでにその魅力を発信していると実感し、埼玉県士会の方とも啓発について熱く語り合う貴重な機会を得ました。花房学会長をはじめ、実行委員の皆様に心より感謝申し上げます。

埼玉県作業療法士会　会長　宇田英幸

開会式の会場があれほど参加者であふれかえっていたことがこれまであったでしょうか。壇上から参加者の期待感をひしひしと感じ今年もよい学会になると確信しましたが、かくして今学会も予想以上の盛況のうちに、多くの成果を残して幕を閉じました。作業療法の魅力について語り合う機会と場を、まさに魅力的に創り上げてくださった花房学会長はじめ、運営に携わってくださった会員、学生ボランティアのみなさんに、心から感謝申し上げます。



リハレンジャーを引き連れはるばる三重県からお越しくださった田中さん、ご自身の体験をもとにOT達に身の引き締まるメッセージをくださった当事者シンポジストのみなさん、ついに当事者の出展者が参加できるようになったNO SAGYO, NO LIFE.に馳せ参じて作品や作業への想いを聞かせてくださったアーティストのみなさん、昨年に引き続き受刑者の作品を展示、紹介してくださった川越少年刑務所のみなさん、参加し発表をしてくださった会員、一般参加者のみなさん本当にありがとうございました。

埼玉県作業療法士会はこれからもしっかりと未来に投資していきます。会員、学生さん、当事者の方々と水平に、対等に協働し、よりよい作業療法、よりよい生活を創り上げていきます。また来年、学会でみなさんにお会いできることを楽しみにしています。

公開ランチョンセミナー

「当事者が作業療法士に望むこと」

公開ランチョンセミナーとして、脳腫瘍・交通事故・脳内出血を経験しながら社会で活躍を続ける3名の当事者の方々にご登壇いただきました。

脳腫瘍による高次脳機能障害とてんかんを抱えながら復職し、現在は当事者会で相談支援やガイドヘルパーとして、自身の経験を「誰かの力に変える」ことを目標に活動する 鈴木保昭氏。

交通事故で高次脳機能障害となり、医療スタッフの支えで復職を果たし、当事者会代表として「恩返しではなく恩送り」を掲げ、目標を持ち続けることの大切さを当事者へ伝え続けている大鳥浩二氏。

脳内出血で左片麻痺を負いながらも作業療法士の支援で回復し、新聞社で勤務を続け、訪問リハを継続しながら資格取得にも挑戦し、挑戦し続ける姿勢が作業療法士の未来を拓くと語る倉持隆氏。



3名の、困難を抱えながらも前へ進み続ける力強さと、その経験を作業療法士への期待のメッセージとともにお話いただきました。

【座長】目白大学 會田玉美 氏

作業療法士が回復期などで関われるのは道のりの最初だけですが、その方たちの社会復帰やその後の生活はそこから始まります。ぜひ希望を持てるような、本人の諦めない心を後押しできるOTになってほしいと思います。



株式会社タイガーチヨダ 鈴木 保昭 氏



作業療法士はとても良い仕事です。当時、リハビリでの会話が面白く、楽しく行えていました。皆さんにはこの素晴らしい職業をぜひ沢山の人に広めてほしいと思います。

高次脳機能障害さいたま これからの道 大鳥 浩二 氏

高次脳機能の回復の可能性は無限大。応援してあげられるOTを目指してほしい。少しも回復しない人はいない、ぜひ前を向けるような支援をお願いしたい。



(株)日本経済新聞社 倉持 隆 氏



人としての尊厳を1番大切に、可能性を最大限に広げてあげてほしい。皆さんにはそのために笑顔で挑戦し続けることを忘れないで。

シンポジウム
未来を担うOTが語る
作業療法７領域の魅力！



埼玉県内で活躍する7領域の作業療法士の方々に、現場での役割や仕事の様子、作業の面白さ、仕事への意気込みなど、それぞれの体験を通して各領域の作業療法の魅力を語っていただきました。

座長：埼玉県作業療法士会 会長 宇田 英幸氏 ⇨





【司法領域】佐藤 竜也 氏（埼玉県立精神医療センター）

司法領域は事件を起こしてしまったり、誰かを傷つけてしまった方たちと関わります。そんな方たちが出所、退院後に楽しく過ごせていると報告してくれたりする時が何より嬉しいです。

【職業領域】稲垣 祐真 氏（特定非営利活動法人東松山障害者就労支援センター）

実際に企業に行って、対象者と直接関われること、企業と対象者の両方をよりよくしていくことができることが魅力だと思います。

【介護領域】福田 裕 氏（岩槻ライトケア）

介護領域は生活行為向上マネジメント(MTDLP)のプロセスを一つの領域で体現しやすいところが魅力です。OTとして学んだことの全てを発揮して利用者と関わるのでとてもやりがいを感じます。

【医療領域】松下 里櫻 氏（旭ヶ丘病院）

医療領域の魅力は患者さんの状況に合わせた生活目標を一緒に考え、その実現に向けて同じ方向を向いてリハビリしていくことにあると思います。

【福祉領域】内野 瑞穂 氏（（株）ハート&アート ダイアリー）

福祉領域は障がいのあるなしや障がいという枠にとらわれず、人と人として、その人自身に向き合うことができるというところが1番の魅力だと思います。

【教育領域】廣瀬 里穂 氏（フリーランス）

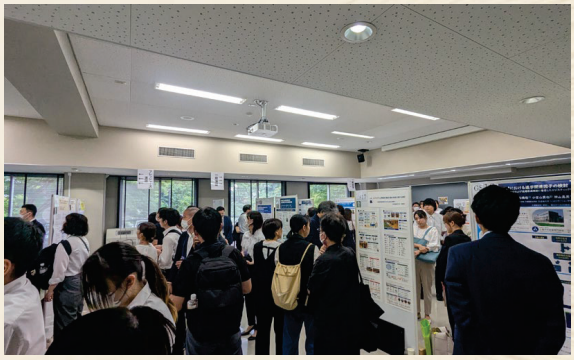
「学校に作業療法士がいること」で、子どもの「できる」を増やすだけでなく、学校の先生と一緒に支援方法や環境を考えて、先生方の支援にもつなげます。子どもと先生の双方を支えながら、より参加しやすい学校生活をつくれることが、教育領域のOTの魅力です。

【保健領域】増田 大樹 氏（富士見市立健康増進センター）

保健領域の魅力は病気じゃない人を対象として、元気な人をより元気にしていく、そのために町の仕組み造りをしていけることだと思います。

ポスター発表

今回の学会では、演題発表形式はポスター発表のみで開催され、『フレッシャーズセッション:若手(作業療法士免許取得後 5 年目未満あるいは学会発表の経験がない方』、『一般セッション:作業療法士免許取得後 5 年目以上あるいは学会発表経験のある方.』の 2 セッションが設けられました。
フレッシャーズセッション21演題、一般セッション19演題の計40演題のポスターが掲示され、多くの方が会場に訪れていました。
演題の中から、優秀演題賞とフレッシャーズ賞が投票で選出され、それぞれの受賞者の方からコメントをいただきました。



フレッシャーズ賞

社会医療法人東明会　原田病院　**種沢 浩平 氏**



私は訪問リハビリに従事していますが、自宅にはその人をかたち作ってきた作業の痕跡が多々あります。今回、おかずを作るという合意目標に対し本人の能力や環境、家族関係に合わせて段階付けをして料理を行った結果、発症後一度も行かなかった台所に立ち、家事の一部を手伝うなど行動範囲が拡大しました。作業の力、作業療法の魅力を再確認し、「やっぱり作業療法っていいな！」と感じ、この演題を選択しました。
恥ずかしながらOT16年目にも関わらず学会発表は初、ということでフレッシャーズ枠となりましたが、このように表彰いただき嬉しく思います。ありがとうございました。いつまでもフレッシュな気持ちを忘れずに頑張っていきます！

優秀演題賞

株式会社ベルツ　在宅リハビリテーションセンター草加

三瓶 政行 氏

作業療法士27年目になりますが、今回初めてポスター発表を行いました。在宅リハで関わった、臥床中心の生活を送っていた重症例への介入をまとめたものです。対象者が抱える生活行為上の課題を改善することはとても重要ですが、そのためには身体機能に対する治療的介入も欠かせないと考えています。週1回という限られた関わりであっても、適切な評価と介入を積み重ねることで、変化につながる可能性を改めて実感しました。
全身にみられていた身体のこわばりが徐々に和らぎ、表情も穏やかになり、笑顔やその人らしさが見られたことが何より嬉しかったです。後日、ご協力いただいた対象者の娘様に優秀演題賞の受賞を報告したところ、とても喜んでいただけたことも印象に残っています。
今回の経験を励みに、今後も臨床に邁進してまいります。」



NO SAGYO, NO LIFE. ～みんなの作品展示会～

埼玉県作業療法士会のこころとくらしの地域支援委員会主催の作品展示イベントが今年も開催されました。作業療法の対象者をはじめ作業療法に関わる方々が作成した作品が展示されました。







こころとくらしの地域支援委員会コメント　原 裕如 氏

今年も埼玉県作業療法学会内で「NO SAGYO, NO LIFE.～みんなの作品展示会～」を開催することができました。今回も60点を超える多彩な作品が集まり、年々この作品展示会が盛り上がっていることを実感しています。川越少年刑務所の受刑者による作品や病院の子どもたちの作品など、出展者の幅もますます広がりました。さらに今回は、作者ご本人に会場へお越しいただき、作品について直接お話しいただく機会も設けることができました。作品を「見る」だけでなく、作者の思いや背景を「知る」ことで、より作品を身近に感じられる展示会になったのではないかと思います。これからも作品展示会をさらに進化させ、いつか作品の販売にもつなげたい……という新たな野望も生まれています。「NO SAGYO, NO LIFE.」のテーマのもと、来年も皆様と作品を囲めることを楽しみにしています！



こころとくらしの地域支援委員会は刑務所で作業療法を展開するために川越少年刑務所と関わってきました。そのご縁から昨年に引き続き今年も川越少年刑務所の方々に参加していただきました。

川越少年刑務所コメント　矯正処遇部門　次席矯正処遇官　門屋睦郎氏

Q.参加した経緯は？

A.埼玉県作業療法士会の原さんに昨年も参加したので今年もどうですか？と誘われて参加しました。対象者と話し合って、今回は合作の千羽鶴とそれぞれ1人ずつ作品を作って展示しています。色々な作品を作ったなかでみんなで話し合って展示する作品を決めました。メッセージカードを作る際には中々言葉が出てこない方もいるので作業療法士が質問しながらも一生懸命作りました。

Q.作業療法の魅力とは？

A.体験を通じて考えを整理できる、みんなで行っていくことでそれぞれの人が成長できることだと思います。自ら助けをもとめる、質問をするということが難しい方も、作業を通じてそれができるようになっていると感じます。







学生交流会・高校生作業療法ツアー

日本医療科学大学
教員　丸達也

各養成校の教員と学生が協力し、高校生の皆さんに作業療法の楽しさや魅力を伝えられたことを嬉しく思います。特に、学生が作成した動画では、キャンパスライフや実習の様子など、作業療法士を目指す学生生活を分かりやすく紹介しており、とても素晴らしい内容でした。また、企画を通して養成校の学生同士の交流も深まり、埼玉県の作業療法のつながりを感じることができました。

高校生の皆さんにも、ぜひこの素晴らしい作業療法の世界に仲間入りしてほしいと思います！



東京家政大学
教員　岡部拓大

養成校の枠を越えて協力し，生き生きと活動する姿に，作業療法学生の頼もしさと将来性を感じました。作業療法は生活を支える素晴らしい仕事です。このご縁をきっかけに，OTを志す方が一人でも増えることを願っております。



学生交流会

養成校の生徒同士の交流会



養成校学生同士の交流



学生が作成した資料



作業療法体験コーナー

高校生ツアー

高校生に対して作業療法紹介



高校生と自助具作成体験



高校生と革細工作成体験



高校生へ資料の説明中

次回予告



じゃじゃーん

第36回　埼玉県作業療法学会　西田典史

挨拶

『信頼は、一朝一夕に築かれるものではありません。日々の実践や対話の積み重ねが、人と人を結び、未来への可能性を広げていきます。「信頼（trust）―人をつなぎ、未来を拓く作業療法―」をテーマに、多様な実践や研究を共有し、互いに学び合う場を目指します。本学会が、新たなつながりと次の一歩を生み出す機会となることを願っています。』

Follow me!!



公式SNS やってます

研修会情報やブロック活動など最新情報をいち早く発信します！

@ot_saitama

@sai_otCE

埼玉県作業療法士会

埼玉県作業療法士会　ホームページ